

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グローバル・アカデミー		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日		～ R7年 1月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	R7年 1月 6日		～ R7年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 16人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は元学習塾という特性を最大限に活かし、学校の宿題やテスト対策、基礎学力の向上に重点を置いています。一人ひとりの理解度に応じた丁寧な指導を行い、子どもたちが「わかる喜び」を実感できるよう取り組んでいます。	子ども一人ひとりに合わせた個別学習プログラムを提供しています。特に基礎学力の定着に重点を置き、苦手な分野の克服を目指したカリキュラムを構築しています。また、学校の進度に合わせた宿題サポートだけでなく、将来を見据えた学習意欲の向上にも取り組んでいます。子どもが学ぶ楽しさを実感できるよう、工夫を重ねています。	元学習塾ならではの強みを活かし、子ども一人ひとりの学習状況に合わせたオリジナル教材の開発を計画しています。具体的には、基礎学力を効率的に身につけられる問題集や、楽しみながら取り組めるワークシートを作成します。また、デジタル教材の導入にも着手し、子どもの興味を引き出す工夫を凝らした学びの場を提供します。
2	子どもの特性や興味に基づいた個別支援計画を丁寧に作成し、学習だけでなく社会性や生活スキルの向上を目指しています。例えば、好きな教科を深める学習プログラムや、コミュニケーション力を高めるためのグループ活動を取り入れています。子ども一人ひとりの「できた」を積み重ねることで、成長を実感できる支援を提供しています。	子どもの興味を引き出すために遊びや活動を通じて学べる環境を整えています。これにより、学びと遊びを両立させ、子どもたちが楽しみながら成長できる場を提供しています。遊びの中に学びを取り入れることで、子どもたちが主体的に活動に参加できる仕組みを作っています。	スタッフの専門性をさらに向上させるため、外部研修やセミナーへの参加を積極的に奨励しています。特に、学習支援や発達障害児支援に関する最新の知識やスキルを習得することで、支援の質を向上させる取り組みを進めています。また、スタッフ同士の情報共有を活発に行い、学び合いの文化を醸成しています。
3	子どもの学習状況や生活面での変化に迅速に対応しています。また、学校の授業内容や課題に合わせた支援を提供し、家庭での学習がスムーズに進むようサポートしています。このような連携体制により、子どもの成長を多角的に支える仕組みを構築しています。	学習や活動において小さな成功を積み重ねることで、自己肯定感を育む取り組みを行っています。例えば、簡単な課題から段階的に難易度を上げる学習法や、活動終了時に振り返りの時間を設けることで、自分の成長を実感できるよう工夫しています。このような成功体験を通じて、子どもたちが前向きに取り組む姿勢を育てています。	地域の文化施設や自然環境を活かした新しいプログラムの開発を検討しています。例えば、地元の博物館や図書館との連携を通じて、歴史や科学に触れる体験学習を実施する予定です。また、地域イベントへの参加を通じて、子どもたちが地域社会とのつながりを感じられる機会を提供します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	元学習塾であるため、学習支援に強みがある一方で、生活スキルや社会性の支援に関してはさらなる専門性が求められています。一部のスタッフには発達支援の経験が少なく、個別ニーズに対応するための知識が不足しているケースもあります。この点が事業所全体の課題として挙げられます	地域資源や外部機関との連携がまだ十分ではなく、地元の文化や環境を活かした活動の幅が狭いことが課題となっています。事業所が地域に対してどのような貢献ができるかを明確化する必要があります。	発達支援や心理的支援に関する外部研修への積極的な参加を促進し、スタッフ全体の専門性を向上させる必要があります。また、学習支援以外の分野（運動、情緒支援など）に特化したスタッフを採用することも検討すべきです。
2	地域社会とのつながりや保護者との密な連携が、まだ十分に構築されていない部分があります。例えば、地域資源を活用した活動や、保護者からのフィードバックを効果的に取り入れる仕組みが不足しています。これにより、支援内容が保護者の期待と完全には一致しない場合があります。	保護者が事業所の支援内容を十分に理解していないケースがあり、期待とのギャップが生じる場合があります。特に、学習面以外での支援内容について、保護者との認識のすり合わせが課題です。このギャップが、保護者満足度に影響を与える可能性があります	地元の図書館、文化施設、自然環境を活かしたプログラムを開発することで、活動の幅を広げる取り組みが必要です。地域のボランティアや専門家と連携し、子どもたちが地域とのつながりを実感できる場を提供することが効果的です。
3	スタッフの数や配置において、子どもの特性や活動内容に対応するための柔軟性が不足していることがあります。また、学習支援以外の分野（心理的支援や運動支援）に強みを持つスタッフが少ない点も、改善が必要な課題と考えられます。	学習に特化したプログラムが多いため、他の分野における多様性が欠けていることが課題の一因です。特に、運動やアート、チームワークを育むプログラムが少なく、子どもたちの総合的な成長を促す場面が限定的になることが懸念されています	学習支援に加え、運動やアート、音楽活動、チームビルディングを含む多様なプログラムを取り入れる必要があります。これにより、子どもたちの興味を引き出し、幅広い分野で成長を促すことが可能になります。また、個別ニーズに応じた柔軟なプログラム構成を目指します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		グローバル・アカデミー		公表日		R7年 1月 31日			
		利用児童数		28		回収数		28	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26			2			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26			2			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	1		2	定期的に掃除はされているが、物が多くて散らかって見えることがある。	清掃頻度の見直しと、整理整頓を意識した収納スペースの工夫を行う	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27			1			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	1			自閉症の特性に応じた具体的な対応があまり見られない	保護者から子どもの特性について具体的な情報をさらに収集する機会を設ける	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27			1			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	1			職員間で情報共有が不足していると感じる	職員が計画内容をすぐに確認できるように、データベースや共有ファイルを整備する	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27			1			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27			1			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27			1			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	24			4	他の子どもとの交流が不十分で、子どもが孤立気味に見える	支援員が子どもたちの仲介役となり、グループ活動や共同作業を通じて自然な交流を促進する	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28						
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1		3	兄弟や家族全員で参加できるような活動があればよい	家族みんなで楽しく学べるプログラム（例：家族参加型の障害理解講座や親子リレー）を開催する	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	28						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23		1	4	参加してみたいが、仕事や家庭の事情で時間が取れない	イベント後に活動内容を記録したニュースレターや写真を共有し、参加できなかった保護者も活動内容を知る仕組みを整える	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27			1				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	1		1	情報がたくさん送られてきて、重要な内容を見落としてしまう	メールや通信では重要事項を箇条書きで記載し、見落としを防ぐ工夫をする
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	1		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25	1		2	訓練が行われているか知らない	年間計画として訓練日程を事前に周知し、認知度を向上させる
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28					
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	1			特に不満はないですが、もう少し頻繁に連絡が欲しいです	定期的な進捗報告や連絡を頻繁に行い、保護者様にお子様の状況をしっかりお伝えします

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		グローバル・アカデミー				公表日	R7年 1月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16		その日によって数人ずつ分かれて行っている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16		職員の配置も十分に配置されています		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	1		現在利用者に歩行不自由な子供はいませんが、玄関前が階段になっている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	16		気になったことは、メモやライン（職員）での周知をしている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16				
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16		個人別の行動チェック表をつけている		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	16			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	16			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	15	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	16			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	16			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15	1	いまだ卒業後利用した生徒がいない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	16			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	16		別施設との交流会を実施	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	15	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	1		ペアレントトレーニングに関する研修は今のところない	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	16			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	16		体育館でのダンス活動を実施。就業されてる保護者の方も多く、思っていたよりも保護者の参加が少なかった	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	16		ラインを使って、写真や動画を発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16		プリントでの取り組み	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	16			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	1	現在、食物アレルギー者なし	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16				